

別紙 1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名

TIPAYALAI Katikar

論 文 題 目

The Impact of the Introduction of Foreign Labor
on the Thai Economy

(外国人労働力導入のタイ経済への影響)

審査担当者

主査 名古屋大学 教授 梅村哲夫

委員 名古屋大学 教授 宇佐見晃一

委員 名古屋大学 准教授 サヴェリエフ・イゴリ

委員 愛知学院大学 教授 藤川清史

論文審査の結果の要旨

1. 論文の概要と構成

国際労働力移動(特にタイへの流入)はタイの経済発展において重要なイシューである。国際労働力移動によるタイの経済と労働市場の変化を理解することは、適切な経済計画および社会計画のために重要である。

現在のタイは、「中進国の罫」と「人口転換(少子高齢化)」に直面している。政府はこうした問題からの脱却のために、「タイ4.0」と呼ばれる長期的な経済開発計画を立案した。この計画は技術者や熟練労働者によるイノベーションに重点を置いており、海外からの技術者や熟練労働者の受入れが焦点となっている。政府には(海外からの労働力を中心とする)低賃金労働力による輸出依存の従来型経済成長は持続可能ではないという認識がある。この研究はタイ経済での外国人労働力の流入の要因を確認し、その役割を検証することを主たる目的としているが、「タイ4.0」計画の成否を占うという意味も含んでいる。

本博士論文は、次の7つの章で構成されている。第1章:序章, 第2章:タイにおける国際労働力移動の変化と新たな課題, 第3章:外国人労働力と経済成長および失業, 第4章:外国人労働力とタイの労働市場, 第5章:タイの地域別外国人労働力の位相と経済成長, 第6章:タイの地域経済成長に対する国際労働力移動の影響, 第7章結論と政策含意。

第3章では外国人労働力流入と失業の関係について検討している。外国人労働力が流入すると国内の労働市場が緩み(超過供給になり), 失業が発生する可能性を指摘する研究者もいる。しかし, 外国人労働力流入と失業とは逆の相関をしており, グレンジャーの因果性テストでも低い失業率(あるいは高いGDP)が外国人労働力流入の原因であると示唆されている。タイでは労働力不足を海外からの外国人労働力で補っているという構図がみられる。第4章では, 簡単なマクロ計量モデルを構成し, 第3章と同様に, 労働力が不足していることが, タイへの外国人労働力の流入の主要因であることを確認した。

第5章では, タイの県レベルでの所得格差の動向について, 収束理論を応用して検討した。総合的にみると貧しい県が豊かな県にキャッチアップしている構図がみられるが, 所得格差が縮小しているとも言いきれない。つまり, タイ全体が1つの収束点に向かって収束しているというより, いくつかのグループ(具体的には3つのグループ)に分かれそれぞれでそれぞれの収束点に向かうという「クラブ収束」の状況にあるといえる。またこの章では, 空間的自己相関分析(Spatial Autocorrelation)の手法を用いて, タイの県をクラスター化した。この分析から, 外国人労働力の比重の大きさとGDP規模とは相関が高いことが分かった。

第6章では, タイの県ごとの労働と資本のデータを整備して, 標準的な生産関数を推計した。ここでは, 外国人労働力を非熟練労働者(低スキル)と熟練労働者(高スキル)の2つに分類している点が大きな特徴である。この結果, 熟練労働者がタイの地域の経済成長に貢献しており, 非熟練労働者の役割は限定的であることがわかった。ただ, 近隣諸国からの熟練度の低い外国人労働力が, 農業・漁業・建設業といった産業で多く見られることは否定できない。低スキルの外国人労働力の経済への貢献は, 高スキルの外国人労働力と比較して低いにもかかわらず, 大規模である。低スキルの外国人労働力は, タイの労働市

論文審査の結果の要旨

場でのミスマッチ(いわゆる 3K 労働, 英語では 3D 労働)を埋めており, また, タイの人口転換に多少なりともブレーキをかける役割があった。なおこの部分は, Springer 社の学術雑誌 *Journal of Economic Structure* に公刊されている。

2. 評価

本論文の貢献は以下のようにまとめられる。

- 1)タイへの外国人労働力の流入はタイ経済の労働力不足が主要因である。外国人労働力はタイでの失業を増やしているわけではない。
- 2)タイの全県の所得が 1 つの収束点に向かっていることは確認されず, 3 個のグループに分かれ, その中でそれぞれの収束点に向かうという「クラブ収束」の状況にある可能性が高い。
- 3)外国人労働力を熟練労働者・非熟練労働者に分けて, それぞれの経済への影響を見ると, 熟練労働者の貢献が圧倒的に大きく, 非熟練労働者の貢献は限定的である。ただ, 地域的にみると, 南部の水産業地域およびバンコク周辺では, 非熟練労働者の貢献も大きい。

これらは、一定の説得性を持って説明されており、評価ができるものの、本研究には以下に示すようないくつかの問題点もある。

- 1)タイで得られる出入国統計は捕捉率が低く, 正規の外国人労働力は現実を反映していない。また, 地域別の資本ストックのデータはなく, 本研究では生産量をウエイトとして, タイ全体の資本ストックを地方に割り振っている。生産量が資本ストックによって強く説明される結果となっていることはある意味で当然である。こうしたデータの不備は結果にバイアスを及ぼしており, 修正が必要である。何らかの方法で, より現実に近い外国人労働力および資本ストックを推計し, 生産関数を再推計することが求められる。
- 2)本研究ではマクロ計量経済モデルの構築を試みているが, 現状のモデルは簡単なものであり改善が必要である。海外からの労働力は財の供給増加のための労働力であると同時に, 財の需要者でもある。また, タイ国内の人口構成を外部から変える役割をもっている。政府の政策によって, 海外からの労働力が増減することも考慮せねばならない。こうした関係を総合的に分析できるマクロ計量経済モデルの構築が求められる。

ただしこれらの改善は, 著者が今後の研究活動の中で行なうべき将来的研究課題であり, 本論文の博士論文としての価値を損なうものではないと考えられる。

3. 結論

以上の評価により, 本論文は博士(国際開発学)の学位に値するものである。